



新国立劇場 2024/2025 シーズンオペラ

モーツァルト 魔笛

Die Zauberflöte / Wolfgang Amadeus Mozart

2024年12月10日(火)～12月15日(日)

会場:新国立劇場オペラパレス 2024年10月13日(日)10:00～前売開始

文化庁劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業



『魔笛』2018年公演より

「音楽の友」読者が選ぶ“好きなオペラ”第1位！モーツァルト珠玉の音の玉手箱『魔笛』

モーツァルト晩年のオペラ『魔笛』は、魔法の笛が導く深遠なファンタジー。耳なじみのある美しい曲が次々に繰り出される様子は、音の宝石箱そのものです。老舗音楽雑誌「音楽の友」誌「あなたの選ぶクラシック・ベストテン 2024」でも“好きなオペラ”堂々の第1位を獲得！子どもから大人まで広い世代から愛される不朽の名作で、世界中の子ども達が『魔笛』でオペラ鑑賞デビューを飾っています。

“動くドローイング”がプロジェクションに！現代アートの巨匠ケントリッジの洞察に満ちた世界

ウィリアム・ケントリッジのプロダクションは、素描をプロジェクションに用いた神秘的な舞台。人間の影と光を対比させる素朴な映像美と、「善」や「力」についての洞察に満ちた傑作で、ケントリッジならではの深い知性とポエジーがあふれ出します。オペラファンはもちろんのこと、現代アートファンも必見のオペラです。

世界的モーツァルト歌いプレスリック登場！フランサ、安井陽子ら実力派が勢揃い

指揮はチェコの俊英トマーシュ・ネトピル。出演者には、世界最人気のモーツァルト歌いパヴォル・プレスリックがタミーノに登場するほか、ヨーロッパで頭角を現すマテウス・フランサが来日。夜の女王役の安井陽子をはじめ、実力派日本人歌手が勢揃いします。

<資料のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当:高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y1307@nntt.jac.go.jp

モーツァルト珠玉の音楽が綴る深遠なファンタジー『魔笛』

モーツァルトのオペラ『魔笛』は“ジングシュピール(歌芝居)”として作曲されたファンタジー。子どもたちにも耳なじみのある曲が多く、世界中で多くの子供たちが『魔笛』でオペラ鑑賞デビューを飾っています。「おいらは鳥刺し」「パ・パ・パ」といった親しみやすい曲、夜の女王の歌う有名なアリア「地獄の復讐はわが心に燃え」など聴きどころが満載で、モーツァルト晩年の美しい曲が次々に繰り出される様はまさに“音の宝石箱”のようです。

さらに、『魔笛』は単純なファンタジーを超え、友愛の精神や人間が克己し成長していく様が描かれ、最終場では崇高な精神と音楽が、劇場を至福の空間へ変貌させます。モーツァルト晩年の思想を伝える唯一無二の傑作として大人のファンからも愛される、奥行き深い作品です。

老舗音楽雑誌「音楽の友」2024年9月号「あなたが選ぶクラシック・ベストテン 2024」でも、読者投票により“好きなオペラ”部門で堂々の第一位を獲得。日本人の“好きなオペラ”ナンバーワンとして輝きを放っています。



“動くドローイング”が楽しい！深い知性とポエジー、洞察に満ちたケントリッジ版『魔笛』



南アフリカ出身の現代アートの巨匠ウィリアム・ケントリッジの『魔笛』は、素描(ドローイング)を用いた神秘的な舞台。ケントリッジの代名詞でもある“素描”を木炭で描いては消し、描いては消してコマ撮りを重ね、丹念に製作した映像がふんだんに重層的に用いられ、人間性の影と光を対比させる素朴な映像美、そして舞台からあふれ出すケントリッジならではの深い知性とポエジーが『魔笛』の本質を伝えます。“カメラ”の視点を取り入れる一方で、バロック劇場を模した舞台装置や遊び心いっぱいの影絵芝居など、“舞台”に対するリスペクトに満ちたアナログな仕掛けも、舞台芸術ファンの心を捉えてやみません。

ケントリッジ版『魔笛』は友愛の精神に満ち、ケントリッジの「人を愛する」という思想と『魔笛』が結びついた舞台です。一方で、この演出は『魔笛』が内包する啓蒙思想の危うさに“植民地主義”を通して光を当て、「善」や「力」についての洞察が込められています。

知識がもたらす権威、慈悲と横暴、人種差別、自然破壊、優位的な男性集団による女性の排除、合理性と幻想性……。ケントリッジは現代の私たちへ次々と、『魔笛』から読み取った疑問を投げかけてきます。様々な象徴を読み解いていく面白さは、『魔笛』は何十回も観た」という方々も決して飽きさせません。

ケントリッジ版『魔笛』は 2005 年にモネ劇場、リール歌劇場(フランス)、ナポリ・サンカルロ歌劇場、カーン歌劇場(フランス)の共同制作によって初演され、その後アフリカ、アメリカ各国まで世界中で大ヒットとなり、シャンゼリゼ劇場(パリ)、ミラノ・スカラ座、エクサンプロヴァンス音楽祭などでも上演されました。新国立劇場では 2018/2019 シーズン、大野和士芸術監督就任第一作として新制作し、オペラに新たな光を当てるプロダクションとして大評判となりました。その後もオペラパレス公演のほか、高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演でも上演を繰り返し、多くの若い方々からも反響を呼んでいます。



人気テノール・ブレスリックが得意のモーツァルトで登場！ 極上のモーツァルトがオペラパレスに響く

指揮はチェコの俊英トマーシュ・ネトピル。オペラとコンサートの双方で世界的に活躍しているネトピルが 12 年ぶりに新国立劇場に登場します。試練に臨む王子タミーノには、モーツァルト歌いとして旋風を巻き起こし、世界の歌劇場を飛び回る人気テノールパヴァール・ブレスリックが新国立劇場初登場。夜の女王は日本の誇る実力派ソプラノ、安井陽子が圧倒的なコロラトゥーラを披露します。賢者ザラストロはヨーロッパで頭角を現すマテウス・フランサ。パミーナには華やかな声と豊かな表現力が魅力の九嶋香奈枝、パペゲーノ&パペゲーナには駒田敏章、種谷典子と、新国立劇場オペラ研修所から巣立



左上よりT.ネトピル、W.ケントリッジ、M.フランサ、P.ブレスリック、安井陽子、九嶋香奈枝、種谷典子、駒田敏章

ち、日本オペラ界の中心世代となった実力派が登場します。

2024年の年の暮れには、極上の『魔笛』をオペラパレスでどうぞ！

～鑑賞のご参考に～

大野和士のオペラ玉手箱 with Singers Vol.1『魔笛』 YouTube 公開中！ <https://www.youtube.com/watch?v=lAjku4UJtEk>

大野和士(新国立劇場オペラ芸術監督)自らがピアノを弾き、歌手による歌唱を交えながら、ユーモアたっぷりに『魔笛』の魅力をご紹介します。

出演:大野和士(ピアノ・お話)、長谷川顯(ザラストロ)、鈴木准(タミーノ)、馬原裕子(パミーナ)、吉川健一(パパゲーノ)、西尾友香理(パパゲーナ)、高橋維(夜の女王)ほか

KENTRIDGE STUDIO 公式サイト「魔笛」プロジェクト <https://www.kentridge.studio/projects/the-magic-flute/>

ウィリアム・ケントリッジの演出ノートはもちろん、創作中にしたための考察、模型写真や製作風景の記録を公開。ケントリッジの洞察の世界へ誘います。

<「魔笛」あらすじ>

王子タミーノが大蛇に襲われ、夜の女王に仕える3人の侍女に助けられる。侍女たちから夜の女王の娘パミーナが悪者ザラストロに捕らえられていると聞いたタミーノは、彼女の救出を決意。身を守るためタミーノは魔笛を、お供の鳥刺しパパゲーノは魔法の鈴を与えられ、ザラストロの神殿へ向かう。タミーノはザラストロが徳の高い高僧だと知り、パミーナと結ばれるために修行をすることに。試練を乗り越えた2人は、祝福のうちに結ばれる。夜の女王は雷鳴とともに地獄に落ち、ザラストロを讃える声が響く。



文化庁劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業により、『魔笛』に18歳以下181名様をご招待します。また、保護者等が同伴される場合は半額でS席をお買い求めいただけます(先着順・席数に上限あり)。

小学校から高校まで教材に取り上げられる名作『魔笛』の美しい音楽、映像の迫力も相まり、人権や環境に対するメッセージが伝わる深遠な舞台からは、多感な青少年世代も多くの刺激を受け止めること間違いありません。この機会にぜひ、ご家族で、グループで、モーツァルトの傑作オペラ『魔笛』を、日本が誇るオペラの殿堂・新国立劇場オペラパレスでお楽しみください。

【対象公演日】2024年12月10日(火)18:30、14日(土)14:00、15日(日)14:00 *ご招待人数:計181名様

【一次募集 受付期間】2024年10月13日(日)～10月20日(日)

【二次募集 受付期間】2024年11月10日(日)～11月24日(日)

※一次募集の申込み状況によって、二次募集を行わない場合があります。

詳細はこちら https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_028071.html

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】トマーシュ・ネトピル

Tomáš NETOPIL

チェコでヴァイオリンと指揮を学んだ後、ストックホルム王立音楽院に学ぶ。02年ショルティ指揮コンクール優勝。08年～12年プラハ国民劇場音楽監督、13年～23年エッセン歌劇場及びエッセン・フィルハーモニー音楽総監督を務め、現在、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、クロムネジェーシュ国際サマーアカデミー創設者兼芸術監督。特にチェコ音楽を得意とし、オペラとコンサート双方で活躍。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン放送響、ウィーン響、パリ管、フランス国立管などに出演。22/23シーズンはエッセン歌劇場で『タンホイザー』『Dogville』『フィガロの結婚』を、ジュネーヴ大劇場で『カーチャ・カヴァノヴァ』を指揮。23/24シーズンはハンブルク州立歌劇場『イエヌーファ』、プラハ国民劇場『ルサルカ』、フランクフルト歌劇場管弦楽団、ネーブルズ・フィルハーモニー、フォートワース交響楽団などに登場。今シーズンはジュネーヴ大劇場『皇帝テイトの慈悲』、ケルン歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』などに登場予定。新国立劇場では12年『さまよるオランダ人』を指揮している。



【演出】ウィリアム・ケントリッジ

William KENTRIDGE

南アフリカ生まれ。ドローイング、アニメーションフィルム、演劇活動やオペラ演出で国際的に評価されている現代美術家。政治学及びアフリカ学を学んだ後、ヨハネスブルク・アート・ファンデーションとパリ・エコール・ルコックで学ぶ。その活動は様々な手法やジャンルの相互的な融合から生まれ、南アフリカの社会的背景である植民地主義やアパルトヘイトといった負の遺産が反映されている。パステルや木炭のドローイングをコマ撮りした映像作品が多く、その理論は、ストップモーションや初期の特殊効果という映画の技術史そのものによる。1990年代より国際的に評価を高め、カッセルのドクメンタ、ニューヨーク近代美術館、ウィーン・アルベルティーナ、サンフランシスコ近代美術館、フィラデルフィア美術館、ルーヴル美術館、メトロポリタン美術館、テート・モダンなどで個展が開かれる。近年はオペラ演出も多く、『ウリッセの帰還』『魔笛』『鼻』『ルル』『ヴォツェック』といった作品で、モネ劇場、エクサン・プロヴァンス音楽祭、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、リヨン歌劇場、オランダ国立オペラ、ザルツブルク音楽祭、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座などに登場している。ゴスラーの皇帝の指環賞、カーネギー賞、スタンダード銀行ヤングアーティスト賞、レッドリボン短編映画賞、京都賞、フランス芸術文化勲章コマンドゥール、アストurias皇太子賞、高松宮殿下記念世界文化賞など数々の賞を受賞している。



【ザラストロ】マテウス・フランサ(バス)

Matheus FRANÇA

ブラジル出身。ブラジリア大学で音楽を学び、合唱指揮、管弦楽指揮の学位を取得した後、声楽を学ぶ。ブラジリアで上演されたベルゴレージ『奥様女中』でオペラデビュー。サンパウロに移り、サンパウロ市立劇場で『セビリアの理髪師』『ドン・バジリオ』『真珠採り』『ヌーラバッド』『ばらの騎士』警部、『ナブッコ』ザッカーリアに出演。サンパウロで『ドン・ジョヴァンニ』騎士長に出演した後、ウィーンのクロスターノイブルク音楽祭『運命の力』ゲアルディアーノ神父に出演。23/24シーズンまでベルン歌劇場と契約し、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『ラインの黄金』『ジークフリート』ファフナー、『魔笛』ザラストロ、『イオランタ』ルネ王、『ウィリアム・テル』ジェスレルなどに出演。23、24年のクロスターノイブルク音楽祭では『ドン・カルロ』宗教裁判長に出演。今後の予定に、クラゲンフルト歌劇場『ラインの黄金』ファフナー、サンパウロ歌劇場『ナブッコ』ザッカーリアなどがある。新国立劇場初登場。



【タミーノ】パヴォル・ブレスリック(テノール)

Pavol BRESLIK

2005年の「Opernwelt」誌最優秀若手歌手に選出され国際的な躍進を遂げる。ベルリン州立歌劇場専属歌手を経てフリーとなり、ヨーロッパの主要歌劇場や音楽祭、さらにメトロポリタン歌劇場へ出演。ウィーン国立歌劇場では『エウゲニオ・オネーギン』レンスキー、『愛の妙薬』ネモリーノ、『椿姫』アルフレード、バイエルン州立歌劇場で『ルチア』エドガルド、『椿姫』アルフレード、『愛の妙薬』ネモリーノ、『魔笛』タミーノ、英国ロイヤルオペラ『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『魔笛』タミーノ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオなどに出演。チューリヒ歌劇場、パリ・オペラ座、リセウ大劇場、モネ劇場、ベルリン州立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへも出演を重ねる。ベルリン・フィルの『魔笛』は映像化され、ミュンヘン放送管弦楽団との「モーツァルト・アリア集」など録音も多い。23/24シーズンはバイエルン州立歌劇場『イドメネオ』タイトルロール、パリ・オペラ座『サロメ』ナラポート、ベルリン州立歌劇場『イエヌーファ』シュテヴァなどに出演。24/25シーズンはザクセン州立歌劇場『メフィストーフェレ』ファウスト、『ローエングリン』タイトルロール、パリ・オペラ座『魔笛』タミーノ、バイエルン州立歌劇場『ルクレティア・ボルジア』ジェンナーロ、『ルサルカ』王子、ベルリン州立歌劇場『ルサルカ』王子などに出演予定。新国立劇場初登場。



【夜の女王】安井陽子(ソプラノ)

YASUI Yoko

桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。二期会オペラ研修所第 43 期マスタークラス修了。文化庁在外研修員としてウィーンに留学、ウィーン国立音楽大学研究課程声楽科修了。クラークフルト市立劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダで欧州デビュー。同国フォアアールベルク音楽劇場『魔笛』夜の女王、ブレゲンツ音楽祭およびザンクト・ベルテン音楽祭でオッフェンバック『青ひげ』小姓、ロザリンデに出演し高い評価を受ける。国内では 2008 年東京二期会『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタで本格デビュー。新国立劇場では『魔笛』夜の女王、『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』顯子、『ばらの騎士』ゾフィー、『アラベツラ』フィアッカミツリ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『ホフマン物語』オランピア、バレエ『カルミナ・ブラーナ』ソプラノ・ソリストなど数多く出演。22 年 12 月には台中国家歌劇院で上演された『魔笛』夜の女王役に招聘され、大成功を収めた。宗教曲から久石譲・交響組曲「もののけ姫」など、ミニマルミュージックまで幅広く活躍している。二期会会員。

**【パミーナ】九嶋香奈枝(ソプラノ)**

KUSHIMA Kanae

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第 4 期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノに留学。05 年アテネ国立劇場開場記念公演『魔笛』(ミハエル・ハンペ演出)に招聘され出演。東京二期会 07 年、15 年『魔笛』パパゲーナ、びわ湖ホール『死の都』ユリエッテ、PMF ステージオペラ『ナクソス島のアリアドネ』ナヤーデなどに出演。ドヴォルザーク『レクイエム』、ベートーヴェン『第九』のソリストとしても活躍。新国立劇場では『愛の妙薬』ジャンネッタ、『フィガロの結婚』スザンナ/バルバリーナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『パルジファル』小姓 1、『ジークフリート』森の小鳥、『魔笛』パパゲーナ、『ペレアスとメリザンド』イニョルド、『ボリス・ゴドゥノフ』クセニア、『ゴジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『魔笛』パミーナなどに出演。二期会会員。

**【パパゲーナ】種谷典子(ソプラノ)**

TANETANI Noriko

国立音楽大学および同大学院を首席で修了。学部卒業時に武岡賞、大学院修了時に声楽専攻最優秀賞受賞。新国立劇場オペラ研修所第 16 期修了。文化庁新進芸術家海外研修員としてミラノおよびブルガノにて研鑽を積む。第 24 回リカルド・ザンドナイ国際コンクール特別賞受賞。第 16 回東京音楽コンクール声楽部門第 2 位。第 91 回日本音楽コンクール声楽部門(歌曲)第 2 位。オペラでは『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『なりゆき泥棒』ベレニーチェ、『こうもり』アデーレなどに出演。2021 年『魔笛』パパゲーナで二期会デビュー、続いて 22 年の二期会『フィガロの結婚』スザンナで一躍注目を集める。日生劇場『セビリアの理髪師』、東京文化会館オペラ BOX『子どもと魔法』にも出演。23 年には二期会『椿姫』にてヴィオレッタを演じ、今後の更なる活躍が期待されている。コンサートでも準・メルクル指揮台湾フィルハーモニック「合唱幻想曲」、マカオ国際音楽祭「第九」などのソリストとして高い評価を得ている。二期会会員。新国立劇場初登場。

**【パパゲーノ】駒田敏章(バリトン)**

KOMADA Toshiaki

愛知教育大学を経て東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第 11 期生としてオペラを学ぶ。研修所公演『ナクソス島のアリアドネ』音楽教師などを演じている。文化庁新進芸術家海外研修制度にてベルリンに留学。12 年オランダ・グローニンゲンで開催された音楽祭 にラヴェル『スペインの時』ラミーロで出演し、Labberte-Hoedemaker Award を受賞。第 83 回日本音楽コンクール(歌曲)第 1 位。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ウェルテル』ジョアン、『ジュリオ・チェザレ』クーリオ、『ボリス・ゴドゥノフ』ニキーティチ/役人、『ラ・ボエーム』ショナール、『トリスタンとイゾルデ』舵取り、高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演『魔笛』パパゲーノに出演。



新国立劇場 2024/2025 シーズン オペラ
文化庁劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業
ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
魔笛

全2幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)
Die Zauberflöte / Wolfgang Amadeus Mozart

【公演日程】2024年12月10日(火)18:30/12日(木)14:00/14日(土)14:00/15日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:29,700円・A:24,200円・B:17,600円・C:11,000円・D:7,700円・Z:1,650円

【前売開始】2024年10月13日(日)10:00～

※予定上演時間 約3時間(休憩含む)

指揮	トマーシュ・ネトピル	ザラストロ	マテウス・フランサ
Conductor	Tomáš NETOPIL	Sarastro	Matheus FRANÇA
演出	ウィリアム・ケントリッジ	タミーノ	パヴォル・ブレスリック
Production	William KENTRIDGE	Tamino	Pavol BRESLIK
美術	ウィリアム・ケントリッジ	弁者・僧侶Ⅰ・武士Ⅱ	清水宏樹
Set Design	William KENTRIDGE	Sprecher/Erster Priester/Zweiter Geharnischter	SHIMIZU Hiroki
	ザビーネ・トイニッセン	僧侶Ⅱ・武士Ⅰ	秋谷直之
	Sabine THEUNISSEN	Zweiter Priester/Erster Geharnischter	AKITANI Naoyuki
衣裳	グレタ・ゴアリス	夜の女王	安井陽子
Costume Design	Greta GOIRIS	Königin der Nacht	YASUI Yoko
照明	ジェニファー・ティプトン	パミーナ	九嶋香奈枝
Lighting Design	Jennifer TIPTON	Pamina	KUSHIMA Kanae
プロジェクション	キャサリン・メイバーク	侍女Ⅰ	今野沙知恵
Projection Design	Catherine MEYBURGH	Erste Dame	KONNO Sachie
再演演出	澤田康子	侍女Ⅱ	宮澤彩子
Revival Director	SAWADA Yasuko	Zweite Dame	MIYAZAWA Ayako
		侍女Ⅲ	石井 藍
		Dritte Dame	ISHII Ai
		童子Ⅰ	前川依子
		Erster Knabe	MAEKAWA Yoriko
		童子Ⅱ	野田千恵子
		Zweiter Knabe	NODA Chieko
		童子Ⅲ	花房英里子
		Dritter Knabe	HANAFUSA Eriko
		パパゲーナ	種谷典子
		Papagena	TANETANI Noriko
		パパゲーノ	駒田敏章
		Papageno	KOMADA Toshiaki
		モノスタトス	升島唯博
		Monostatos	MASUJIMA Tadahiro
合唱指揮	三澤洋史		
Chorus Master	MISAWA Hirofumi		
合唱	新国立劇場合唱団		
Chorus	New National Theatre Chorus		
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団		
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra		
芸術監督	大野和士		
Artistic Director	ONO Kazushi		

Production of Aix-en-Provence Festival and Rouen Opera, created at Théâtre de la Monnaie in 2005

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/die-zauberflote/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 乙席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場Webボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。*未就学児入場不可。

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】



【11】



【12】

新国立劇場『魔笛』2018年公演より 撮影:堀田力丸